

共生の進化と職場

“強いものが生き残るのではなく、環境変化に対応できたものだけが生き残る”とトヨタの社長は言っています。人類が進化していく過程でダーウインの自然淘汰論、強い者が勝ち残るという適応可能論の逆説、進化は単なる変化にすぎず環境変化に対応して生き残ると言う環境変動論などが説かれています。

エスキモーはなぜ子供を交換して育てるか、人はなぜ溺れる子を助けるか(利他行為)、最適は最善ではない、最終的に生き残る者は強い者とは一致しない、鳥はなぜヒナを少なめに育てるか、うそつき村は滅びる、どうしてか、資本主義社会にはどうして民主主義が必要か、

生物は種全体に有利になるように行動する。それ自体は非常に働きにくいことではあるが集団レベルでの選択をとり、人類が一人勝ちを避け持続性を優先するにはお互いに協力し合って生き残る“共生の進化”を選んでいると考えられる。医療においても職場においても同じことが考えられませんか。

参考書：「強い者は生き残れない」 吉村 仁 (新潮選書)